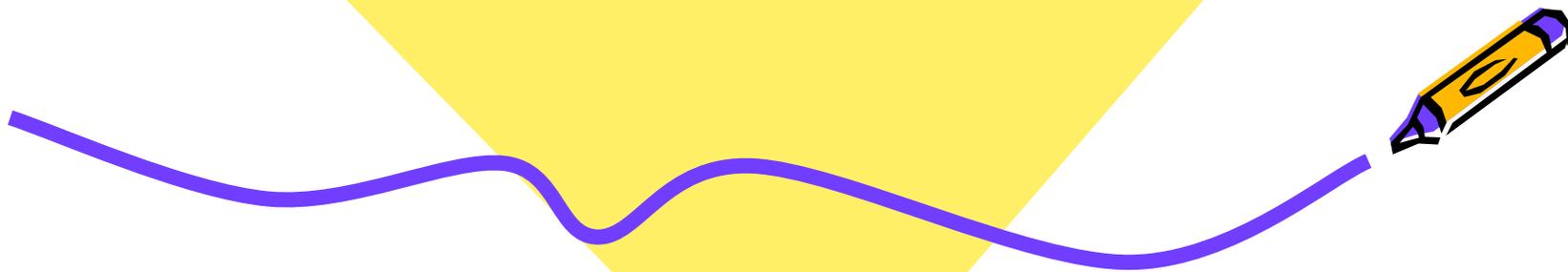


手書き文字の毛筆崩し書体への 多段的変換システム

手書きストロークのワイヤー・アクション

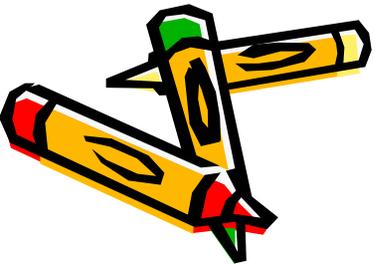
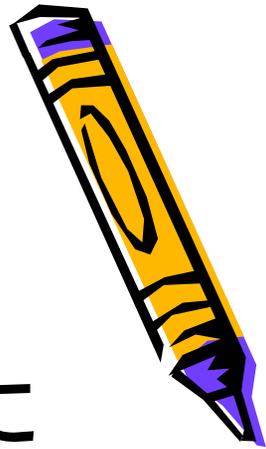


大場 幹浩

開発の目的

- 手書き文字を元にする事による、無限に多くの毛筆書体の生成とその柔軟な加工
- 草書体のデジタル機器上での生成と加工

任意の手書き文字の軸線データを特殊技術を用いて崩し書体に変換し、毛筆状にグラフィック表現することで上の課題を解決するシステムの、そのシミュレーション精度と操作性の向上



主な機能・特徴

- 「崩れ」「太さ」「連綿」「掠れ」等々の多数の値を各々数十段階にわたって設定可能
 - 元の字形の変更に変換型も連動するため、双方の効果としての無限に多くの書体の生成性
- 変換値群をシステム設定したコマンドによる、古典的な書家風の書体への一変換
 - 王羲之風、懐素風、最澄風、良寛風、などなど・



主な機能・特徴

- 手書き文字と文字コードとの対応登録による、テキストからの手書き文字の呼び出し
 - タブレットPC上ではその文字認識機能の利用により、登録時の文字コードの指定が不要
- 主要機能のライブラリ化による、他ソフトからの毛筆体生成プロセスの簡易活用
 - 手書き文字の軸線の座標データと「崩し」「太さ」などの数値を送るだけで、その毛筆体のビットマップ画像を即座に返送



市場効果・ポイント

- フォントによる既成の書体ではない、自らの文字を元にした流麗・高品位なオリジナル毛筆書体の、一般ユーザによる容易かつ大量の取得

ペン入力マシンの発展に伴う認知・需要の拡大性

「書」の変換シミュレートに関する多数の考案の集積体

(類似システムの開発を一から行うことの困難さ)

文字間の連続線を持つ草書体はこの方法でのみ柔軟な生成が可能

